

実践報告 札幌市立あいの里西小学校

(1) 研究内容

研究課題：「学校にアイヌ民族の方を招いて行う体験的学習の研究」

- 北海道の先住民族アイヌの人たちをお招きし、アイヌ民族が築いてきた歴史や文化について、歌や踊り・遊びや講話などを通し、体験的に理解を深める。

(2) 実践の内容

【実践①】マユニタラモシリ札幌トンコリ保存会の方との交流

○ ねらい

アイヌ民族の歌・踊り・音楽を体験したり、アイヌ民族の歴史や人権についての講話を聞いたりし、自然を生かす知恵について考える。

○ 学習内容

＜アイヌ語について＞

日常的なあいさつについての講話

＜アイヌの音楽について＞

ムックリやトンコリについての講話と鑑賞

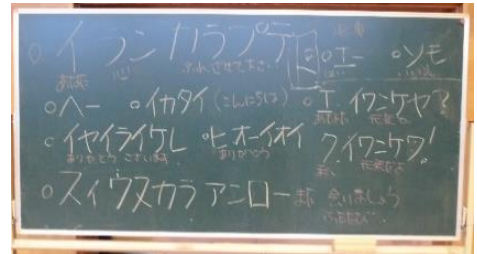
踊りの鑑賞と「輪踊り」体験

＜アイヌの遊びについて＞

アイヌ民族の遊び道具を用いた体験活動

＜アイヌの衣服について＞

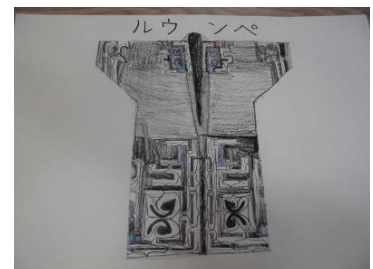
アイヌの衣服や装飾品についての講話



【実践②】調べたこと、体験したことをまとめて伝える活動

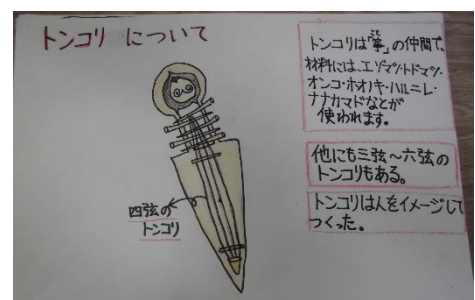
○ ねらい

学習した内容や体験した活動をもとに、アイヌ民族の衣食住や遊びについて分かりやすく絵や文でまとめ、伝えることができる。



○ 学習内容

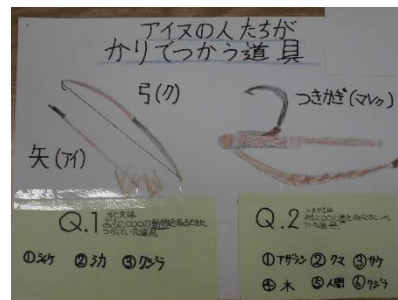
アイヌ民族の「衣・食・住・遊び」の4つのテーマの中から興味をもったことを一つ選び、グループで学習した内容や体験した活動をもとに絵や文でまとめる。



(3) 研究のまとめ

① 成果

- 「郷土の発展につくす」という単元は、大きく分けて①アイヌ民族の「衣・食・住・遊び」の4つをテーマにした学習、②保存会の方との交流会、③絵や文でまとめる活動の3つを柱に学習を進めた。保存会の方との交流は、そのうちの②にあたる。アイヌ民族の考え方や、歴史、生活の様子などについての子どもたちの興味は高く、意欲的に学んでいた。交流会での子どもたちの姿からは、アイヌ民族がより身近に感じられるようになった。例えば、アイヌ語の講話では、「〇〇というのは、アイヌ語ではどのように言うのか」など、子どもたちから多くの質問が出された。「アイヌ語は保存会の方々にとっても難しいため、現代では単語として伝承されてはいるが、アイヌ語を用いて会話をすることはできない」というアイヌ民族の人権に関わる課題についても触れることができた。このようなことを直接うかがうことができ、子どもたちがアイヌ民族の存在について考えるきっかけとなった。
- 交流会により、一層、アイヌ民族の「衣・食・住・遊び」への興味を高めることができた。テーマごとに3、4人のグループを構成して学習を進めたので、互いに交流会で得た知識を振り返りながら学びを深めることができた。起承転結を意識した発表形式を工夫したり、クイズ形式で発表を行ったりするなどの工夫が見られ、学習した内容や体験した活動をまとめるだけでなく、伝える相手を意識した取組になった。これも、保存会の方々との交流の成果である。



②課題

- 自分の興味にもとづいてテーマを選び、テーマにこだわらないグループ構成で事後学習の発表を行ったので、学びが深まったとは言い難かった。事後学習の展開の方法は、まだまだ改善の余地がある。

③ 提言「人権教育のすすめ」

- 今回は社会科の学習の中での「人権教育」として行ったが、「人権教育」を学習のねらいの中心においてさらに発展していくことを考えると、総合的な学習の時間や道徳科との教科等横断的なカリキュラムの作成が必要。

